

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

ライトニング FAX バージョン 6.00 リビジョン02 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「ライトニング FAX」(Ver. 6.00-01→Ver. 6.00-02)において、
下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

◎以下の OS に対応しました。

<クライアント>

- ・Microsoft Windows 10 Pro
- ・Microsoft Windows 10 Enterprise

※クライアントを導入する PC の画面の解像度は 1280×800 以上にする必要があります。

※「タブレットモード」は動作保証外です。

◎ライトニング FAX のトレースログファイルにバージョン情報を出力するようにしました。

[サーバ機能関連]

◎LCR 機能を使用している場合、共有リソースに登録されたアイテムについて、LCR 転送先のアイテムの「再送信回数」を反映する設定を設けました。

◎FAX 自動送信機能において、ユーザ ID を 63 バイトまで設定できるようにしました。

[ドライバ機能関連]

◎アバール長崎社製 CT Network BOX、NTT データ先端技術社製 VOISTAGE マルチメディアボックス、MFP 送信連携機能を使用している場合、ライトニング FAX ドライバ通信スレッド状態監視機能を利用できるようにしました。

[API 機能関連]

◎ライトニング FAX API において、ユーザ ID を 63 バイトまで設定できるようにしました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[システム全般]

- ・FAX 送受信時にライトニング FAX 電話帳を参照する以下の機能で、電話帳内のすべての「連絡先リスト」に対して情報検索する場合、「ユーザ形式電話帳インポートファイル(CSV)」からデータをインポートした電話帳で検索エラーとなり機能が動作しない。
 - ・受信時自動ルーティング
 - ・電話帳情報の自動設定
 - ・自動返信
 - ・スタンバイ登録スキップ
 - ・送信 FAX 番号自動確認
 - ・会社名自動設定
 - ・電話帳利用の FAX 返信

[サーバ機能関連]

- ・不正な TIFF イメージデータ (※) を自動印刷しようとするすると LFprint サービスがアプリケーションエラーとなることがある。
※例：ファイルサイズが 8 バイト以下、TIFF フォーマットデータが範囲外
- ・LFslave サービスの開始時に、動作に必要な情報が存在せず初期処理に失敗すると、サービスは開始するが自動削除、再送信開始、LCR 転送などの処理が行われない。
- ・作業中フォルダから、「送信済」「送信失敗」「スタンバイ」「保留」「再送信待ち」のステータスの FAX アイテムを削除するとき、削除中にステータスが「送信準備完了」に変わっても、そのまま削除される。保存オプションが設定されている場合は、保存済フォルダに「送信準備完了」のステータスで FAX アイテムが移動される。
- ・QR コード解析機能において、ノイズのない QR コードの解析に失敗する。

[ドライバ機能関連]

- ・不正な TIFF イメージデータ (※) を FAX 送信しようとするすると LFdriver サービスおよび LFdriverSender サービスがアプリケーションエラーとなることがある。
※例：ファイルサイズが 8 バイト以下、TIFF フォーマットデータが範囲外
- ・極稀に、FAX 送信がすべてエラーコード 10003 で失敗するようになる。
- ・アバール長崎社製 CT Network BOX または Dialogic 社製 TR1034 ボードを使用している場合、FAX 受信に成功しても、受信した FAX のイメージがライトニング FAX ビューワで開けないことがある。
- ・アバール長崎社製 CT Network BOX を使用している場合、サービス起動やチャネルリセット処理のタイミングでネットワーク障害が発生してライトニング FAX モニタの回線が×マーク (使用不可) になると、ネットワーク側が復旧しても回線は使用不可のままとなる。
- ・アバール長崎社製 CT Network BOX を使用している場合、FAX 受信で相手先 FAX 機からの信号を FAX 信号として認識できないとき、誤ったエラーコードとなる。
<誤>23133
<正>23117
- ・アバール長崎社製 CT Network BOX を使用している場合、回線品質が低下している環境で、SuperG3 で FAX 送信を開始しても、相手 FAX 機から G3 に切り替えられると以降のフォルダダウンを行わずに送信エラーとなる。(エラーコード：23120)

[クライアント機能関連]

- ・「一般ユーザ」以外のアクセス権のユーザの[リスト設定]に自分以外のユーザを表示する設定がされている場合、以下の手順でアクセス権を変更すると設定が変わらず、変更後のアクセス権では参照できない他のユーザの FAX アイテムが表示される。
 - ・FAX エクスプローラの[ユーザ編集]で[頻度][ユーザ設定][表示][リスト設定]画面のいずれかを表示してから、[セキュリティ]画面で現在よりも低いアクセス権に変更する。
- ・以下の環境のライトニング FAX クライアントを上書きインストールすると、クライアントからの FAX 送信ができなくなる。
 - ・インストール先フォルダの先頭から 1 バイトスペースまでのパスと一致するファイルが存在する。
例：インストール先フォルダが「C:\Program Files(x86)\Lightning FAX\LFclient」で、C ドライブ直下に「Program」というファイルが存在する。
- ・VOISTAGE 基本ソフトウェアとライトニング FAX クライアントをインストールした環境で VOISTAGE 基本ソフトウェアをアンインストールすると、ライトニング FAX 電話帳の起動時にエラー「Internal application error.」が表示される。電話帳ファイルを開こうとするとエラー「Command failed」が表示され、ファイルが開けない。

[API 機能関連]

- ・API コマンドファイルで@CONVERSION_MODE に LFENGINE を指定した場合、以下の問題点がある。
 - ・PDF ファイルの変換に失敗してもエラーにならず、文字化けなどデータが正しく変換されていない TIFF イメージファイルが登録されることがある。
 - ・Lightning FAX プリンタドライバを使った送信操作中の状態であると、ファイル変換がタイムアウトのエラーになる。
 - ・CJSSystemPrinter プリンタドライバで PDF ファイルの印刷に失敗すると、それ以降の LFENGINE 指定のファイル変換がタイムアウトのエラーになる。
- ・API コマンドファイルで、@CONVERSION_MODE または@COVER_CONVERSION_MODE に指定された文字列が定義値に一致しないと、ファイルの内容がテキストとして TIFF に変換されて送信登録される。ただし、@CONVERSION_MODE に指定された文字列が「TIF」と部分一致する場合は、ファイルが TIFF に変換されずにそのまま送信登録される。
- ・API コマンドファイルで最大長を超えた文字列が指定され、最大長の末尾が 2 バイト文字の 1 バイト目である場合、末尾が文字化けする。

[電子メールゲートウェイ機能関連]

- ・ライトニング FAX 電子メールゲートウェイ (SMTP 版) で、PDF ファイルの TIFF 変換モードに「互換モード」を指定した場合、以下の問題点がある。
 - ・PDF ファイルの変換に失敗してもエラーにならず、文字化けなどデータが正しく変換されていない TIFF イメージファイルが登録されることがある。
 - ・CJSSystemPrinter プリンタドライバで PDF ファイルの印刷に失敗すると、それ以降の添付ファイル (TIFF 以外) の変換がタイムアウトのエラーになる。
- ・ライトニング FAX 電子メールゲートウェイ (SMTP 版) で、Lightning FAX プリンタドライバを使った送信操作中の状態であると、添付ファイル (TIFF 以外) の変換がタイムアウトのエラーになる。ただし PDF は TIFF 変換モードが「互換モード」の場合のみエラーとなる。

[マニュアル関連]

- ・『ライトニング FAX ユーザーズマニュアル クライアント編』の「ライトニング FAX ビューワ」で、「ライトニング FAX ビューワを前回終了時の設定で起動する」のレジストリの値名に以下の誤りがある。
<誤>VivInfoTake
<正>ViewInfoTake

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32ビット	64ビット
VMware ESXi 5.0	Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1	—	○
Windows Server 2008 R2 SP1 Hyper-V	Windows Server 2008 Standard SP2	○	—
Windows Server 2012 Hyper-V	Windows 7 Ultimate SP1	○	—
	Windows 10 Enterprise	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Windows Vista Business Edition SP2	○	—
	Windows 7 Professional SP1	—	○
	Windows 7 Ultimate SP1	○	—
	Windows 8.1 Pro	○	○
	Windows 10 Pro	○	○
	Windows 10 Enterprise	○	—
	Windows Server 2008 Standard SP2	○	—
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Windows Server 2012 Standard	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

注意事項

- ・次の環境では、MFP 連携ドライバについても動作を確認しています。
Windows Server 2012 R2 Hyper-V のゲスト OS「Windows Server 2012 R2 Standard」
- ・次の環境では、アパール長崎社製 CT Network BOX 用の LFdriver についても動作を確認しています。
VMware ESXi 5.0 のゲスト OS「Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1」
- ・ゲスト OS がクライアント OS の場合、ライトニング FAX のクライアント環境として動作を確認しています。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は、弊社では対応できません。それぞれのメーカー様、ベンダー様までお問い合わせください。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。